

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年4月27日 NO.11 (211)



シラン



スズラン

オー君 「うわあー！きれいな花がいっぱいだ。」

花ちゃん 「スズランとシランの花よ。その他にもいろいろと咲いているわ。」

オー君 「へえー！すごいね。でも、このお花どこに咲いているの。」

花ちゃん 「え！オー君。このお花は七小の北門を入ったところに咲いているのよ。」

オー君 「へえー！そうなんだ。春になっていろいろなお花が咲いて気持ちいいね。」

花ちゃん 「そうね、菜の花はもう終わりだけど、ハナダイコン（ムラサキハナナ）は、まだ咲いているわ。それから、校長先生がもってきたシャガも体育館の西で咲き始めているわ。それに、この前、2年生の子供達と校長先生がアサガオの種をまいていたわ。」

オー君 「ということは、学校中が花でいっぱいになるということだね。」

モンタ博士 「校長先生は、今年もコスモスやヒマワリの種をまいて、去年よりももっとも『花いっぱいの学校』にするんだといていたよ。」

花ちゃん 「それは、とってもうれしいことですね。」

オー君 「それは、とっても楽しみなことですね。」

花ちゃん 「ところで、学校の他にもあちこちでいろいろなお花が咲いていますね。」



チゴユリ

モンタ博士「ところで、^{うえ} ^{はな} ^み上の花は見たことあるかな。」

オー君 「ふーむ。ぼくは^み見たことないな。」

モンタ博士「^{そうきばやし} ^み ^{はな}雑木林などではよく見かける花だよ。^{じょうやま} ^{ひとつばしだいがかくこうない}城山や一橋大学構内などでも^み ^{はな}たびん見られる花だね。」

花ちゃん 「チゴユリという^{はな}花ですね。チゴとは^{ちご} ^か稚児と書いて、^こ ^い ^み子どもという意味です。」

モンタ博士「ほほー。さすが^{はな}花ちゃんだ。ユリの^{なかま} ^{すこ} ^{したむ} ^さ仲間です。少し下向きに咲くのもいいね。」

花ちゃん 「^{たか} ^{ちい} ^{はな} ^{いろ} ^{じゅんぱく}高さ20センチほどの小さなユリね。花の色が純白なものもステキね。」

モンタ博士「^{そうきばやし} ^な ^{こえ} ^き ^{ちい} ^{はな}雑木林にしゃがみこんで、ウグイスの鳴き声を聞きながら、小さな花たちのお^{まつ} ^{さんか} ^{たの} ^{いのち} ^{きせつ} ^{かん}祭りに参加するのも楽しいね。生命の季節を感じながら、わくわくドキドキしていこう。」

スプリング・エフェメラルのつばやき

春の里山では、美しい野の花たちのパレードが始まっています。もちろん私たちスプリング・エフェメラルが、一番に春の目覚めを告げるんです。スプリング・エフェメラルというのは、「春のはかない命」という意味で、雑木林の主要な樹々である落葉樹が、葉を全て展開する前のほんのひと時、林床に花を咲かす植物のことなんです。また、春の妖精との異名も持っているんです。そのスターと言え、カタクリ、ニリンソウ、ムラサキケマン、チゴユリ、キンランなどなど、他にもいろいろとありますが、これらの植物は、春の陽光を待ちわびて、夏までの間に光合成を行い、地下の栄養貯蔵器官や種子に栄養分を蓄えます。そして、その後は、春までの地中の地下茎や球根の姿で過ごすというライフスタイルの持ち主なんです。連休の終わり頃までの野山で皆様をお待ちしておりますので、どうか、私たちを探しに来て下さい。